

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 40年の歩み



世界中すべての
子どもの権利が
実現された
世界を目指して

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの
40年の歩みを振り返り、未来を描く旅

ごあいさつ

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが創立40年の節目を迎えるにあたり、これまで支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

子どもの権利が日本社会にまだ十分に根付いていなかった1986年に一步を踏み出し、今では国内外の様々な分野で支援の輪が広がったことは、理念に賛同し、ともに歩んでくださった多くの皆さまのお力添えの賜物にほかなりません。私自身もその支援の輪に加わり、世界中の子どもたちに地道な支援を続ける活動がいかにかに尊く、不可欠なものであるかを改めて肌で感じた次第です。

しかし、未だに紛争や自然災害、貧困、暴力など、子どもたちを取り巻く問題は終わりが見えません。だからこそ私たちは、すべての子どもの「生きる 育つ 守られる 参加する」機会を等しく提供するために、これからも活動に力を尽くしてまいります。今後もセーブ・ザ・チルドレンの子ども支援活動に、あたたかいご賛同とご協力をいただけますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

2026年5月7日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
名誉理事長 上野 昌也

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、1986年の創立以来、本年で40年という節目を迎えることができました。

ここまで歩み続けることができましたのは、ひとえに皆さまのお力添えの賜物です。長きにわたり、日本と世界の子どもたちとともに活動を続けてこられましたことに、心より感謝申し上げます。この40年を振り返ると、私たちは国内外でさまざまな状況に置かれた子どもたちの権利保障に取り組んでまいりました。

私たちが活動を続けてこられたのは、セーブ・ザ・チルドレンに寄り添い、支えてくださった皆さまのお力添えがあってこそです。しかし世界では、子どもたちの権利がまだまだ十分に保障されているとは言えない現状があります。

だからこそ、私たちはこれからも一層活動を推し進めてまいります。私たちはこれからも、世界中すべての子どもの権利が実現された社会を目指し、歩みを止めません。この節目を新たな出発点として、一人ひとりの子どもの声に耳を傾け、子どもたちが自らの可能性を最大限に発揮し、未来を選び取ることでできる社会の実現に向けて、全力で挑み続けます。これからも変わらぬご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。

2026年5月7日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
理事長 井田 純一郎

「すべての子どもの権利が実現された世界」—これが、セーブ・ザ・チルドレンの掲げるビジョンです。活動の指針であると同時に、時代が変わっても決して手放すことのできない、子どもたちへの約束でもあります。

この40年、私たちは、国内外でさまざまな支援を積み重ねてきました。創立当初の海外支援から、国内の子どもの貧困問題や大規模災害への対応へと活動を広げてこられたのも、「子どもの権利」という揺るぎない軸と、多くの方々からのご賛同ご協力があったからにほかなりません。

そして、私たちのミッションは、子どもたちとの向き合い方に「画期的な変化」を起こすことです。それは支援を届けるだけにとどまらず、権利の主体である子どもを社会の中心に据えて社会の仕組みそのものを変えていくことです。事業を通して積み上げてきた知見やパートナーシップは、その変化を生み出す力の源となっています。

私たちは、これからも一人ひとりの子どもの声を社会につなぎ、多くの方々とともに、子どもの権利が実現される未来を切り拓いていきます。

2026年5月7日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
専務理事・事務局長 高井 明子



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、
2026年に40年を迎えました。

多くの仲間とともに歩んできた40年。

その歩みを振り返り、未来を描く旅へ。
さあ、ともに出かけましょう。



招待状

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの
これまでと、これからをつなぐ旅へ
ともに、出かけましょう。

セーブ・ザ・チルドレンは、1919年にイギリスで創設された
100年以上の歴史を持つ、子ども支援専門の国際NGOです。
日本では、1986年に創立され、今年で40年を迎えました。
すべての子どもの権利が守られる社会の実現を目指し、
国内外で活動を続けています。



1985年

セーブ・ザ・チルドレンUKの総裁(当時)アン王女より当時の美智子妃殿下に日本法人創立の提案がありました。これを受けて、大阪青年会議所と国際婦人福祉協会の有志が創立に向けて準備を開始しました。



創立40年、誠にありがとうございます。イギリス王室のアン王女が来日された際、当時皇太子妃でいらした美智子妃殿下に日本法人設立のご提案がありました。こうしてセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが設立されてから、40年という歳月が流れました。これからも、世界の子どもたちの今と未来に向けて、歩み続けてください。

セイコーグループ株式会社
名誉顧問

服部 悦子氏

ここからはじまったんだね!

1985年の夏、大阪青年会議所のメンバーであった私が、日本青年会議所の田中事務局長に呼び止められ、「国際婦人福祉協会が日本にセーブ・ザ・チルドレンをつくりたがっているの、大阪青年会議所で手伝ってほしい」と打診されたのが始まりでした。同じ頃、イギリスで結成されたアフリカの飢餓救済プロジェクト「バンド・エイド」が話題を呼び、アメリカでも“USA for Africa”というプロジェクトの下、マイケル・ジャクソンなどのスーパースターが集結し、“We are the World”という曲が作られ、世界中に音楽を通して困難な状況にある子どもを救う大きなインパクトが生まれました。そのような時代背景もあり、大阪青年会議所も、「義を見て為さざるは勇なきなり」と、創立のお手伝いをする事になり、翌年1986年5月、メキシコで開催されたセーブ・ザ・チルドレン世界総会に参加し、入会が認められた次第です。そしてセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが始まり、関係者のお力で現在にいたっています。これもご縁とお導きでしょうか?

サラヤ株式会社 代表取締役社長 更家 悠介氏



一番の思い出は1987年イギリス・ロンドンで開催された世界会議でセーブ・ザ・チルドレンUK名誉総裁(当時)のアン王女にお会いしたことです。我々日本のメンバーに、日本にセーブ・ザ・チルドレンの組織ができたことを嬉しく思う。このような若者が中心となり活動を進めれば、早くすばらしい団体になるでしょうと非常にフランクに期待を込めてお話をいただいたことです。ただ、ご期待に応えられるようなスピードで成長することができなかったことが唯一の心残りです。

株式会社ユニオン
代表取締役社長

立野 純三氏



1989年

国連で「子どもの権利条約」が採択されました。この条約には、セーブ・ザ・チルドレンの創設者である、エグランタイン・ジェブが起草した「ジュネーブ子どもの権利宣言」の理念が受け継がれています。



1988年

インドネシアとメキシコ、ケニアで教育支援を開始しました。また、メキシコでは保健支援も行いました。



大阪でスタートしたセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、創立当初から大変な状況を経験しました。とくに財務の面では大変苦しみを味わうこととなりました。幸い、立野理事長(当時)のご支援で厳しい状況を乗り切ることができました。その後、事業はスタッフの思いの強さで順調に進んでいきました。ベトナムでは子どもの栄養失調の問題が起き、このままでは脳障害が生じるという専門家からの指摘があり改善策を打つことになりました。セーブ・ザ・チルドレンUSAとともに鶏を飼育し、産んだ卵を子どもに食べさせる事業でした。幸い、子どもの栄養改善が爆発的に進み大変評価される活動となりました。またフィリピンではスモーカーマウンテンという廃棄物の山で生活する子どもたちの支援を行いました。劣悪な環境で子どもたちは気管支を痛めることになるため、他の生計手段を得られるように職業訓練支援を提供しました。この事業も大変良い方向に進み、かなりの健康改善がみられました。このように初期の事業は、少ないスタッフでかなりの成果を上げられたと思います。

学校法人エール学園 総長 長谷川 恵一氏



クイズ

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが初めて海外現地事務所を開設した国はどこでしょう?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

1986年

世界で22番目のセーブ・ザ・チルドレン組織として創立しました。この年、フィリピンとタイで、教育支援を開始しました。タイでは、小学校に行くことができないスラム街に暮らす12歳以下の子どもたちを対象に、移動式学習センターで学習支援を行いました。



1987年

ネパールとバングラデシュで、保健・栄養支援を開始しました。バングラデシュでは医療環境が整わない病院へ医療機器などを提供しました。



1990年

エジプトで放課後に子どもたちが集まれるセンターの建設を支援しました。ネパールでは女性向けの職業訓練を行いました。



前のページの
答え合わせ!

1991年

フィリピンに団体として初となる海外事務所を開設しました。首都マニラのごみ処理場に隣接するスモーキーマウンテンに暮らす子どもたちを対象に、教育や保健医療支援を行いました。



1992年、セーブ・ザ・チルドレン世界連盟が、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の最高資格である総合諮問資格 (General Consultative Status) を取得しました。

1992年

ネパールとタイに事務所を開設し、ネパールでは教育支援、タイでは栄養支援と児童労働撤廃に向けた支援を開始しました。



ECOSOCの資格を持つことで、国連経済社会理事会の会議参加や意見提出が可能となり、経済・社会分野の政策議論に幅広く関わる事が認められます。

1993年

フィリピンとネパール、タイで引き続き、教育支援などを実施しました。



1994年

旧ユーゴスラビアにおいて、避難してきた子どもとその家族に対する緊急支援を実施しました。



創立40年、誠にありがとうございます。子どもたちの権利を守り、健やかな成長を支えるための長きにわたる真摯な活動に、深く敬意を表します。1993年、私たちがコンビニエンスストアとして、日本で初めて店頭募金箱を設置した際、その最初の寄託先がセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでした。以来、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」などを通じて地域のお客さまの温かい善意を届けてまいりました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの歩みは、私たちの社会貢献活動の核ともなっている「次世代応援」の原点そのものです。現在、気候変動や紛争、貧困問題など社会課題は多様化しています。こうした中で、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンから共有いただく国内外の子どもたちに関する知見は、私たちの支援のあり方を考える上での重要な指針となっています。専門性を持つセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの強固な連携があるからこそ、より広域で実効性の高い支援を届けることができている。子どもたちの笑顔は、持続可能な未来の象徴です。これからも、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに、地域に寄り添うファミリーマート店舗を通じて、お客さまの想いを日本、そして世界の子どもたちへと結び、誰もが希望を持って自分らしく成長できる社会をともに築いていけることを願っております。

株式会社ファミリーマート
代表取締役社長

小谷 建夫氏



1995年

1月に発生した阪神・淡路大震災を受け、地域の子ども支援団体をサポートしました。また、ベトナムに現地事務所を開きました。



1996年

創立10年を記念し、東京で「子どもの幸せをつなぐ国際フォーラム」を開催しました。



クイズ

2002年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが、アフガニスタンで始めた活動は何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

1997年

ベトナムで女性が安全に出産できる環境を整備するため、診療所に分娩室をつくりました。



1998年

ベトナムで子どもの栄養状態を改善するため、3歳以下の子どもと母親などを対象に体重測定や栄養回復のための支援を行いました。



この度は創立40年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。私が海外事業を担当していた際、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが弊団体の助成金を活用して事業を実施されるにあたり、事業実施ガイドラインの解釈について意見を交わす機会がございました。その折、こちらの問いかけに対し、皆さんが一つひとつ丁寧に説明くださり、より適切な運用をともに模索できたことは、今も印象深く記憶しております。議論の過程において示された誠実さと専門性は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの組織としての強さを端的に表すものと感じました。40年にわたるご尽力に敬意を表するとともに、今後のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

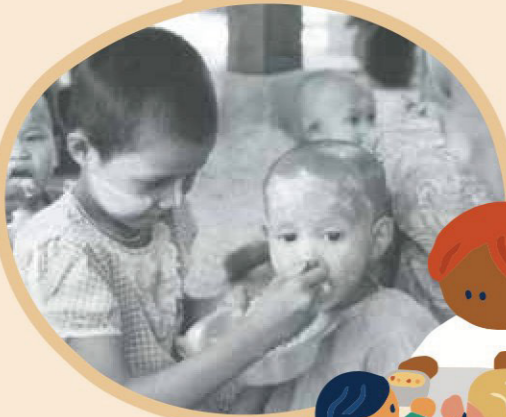
特定非営利活動法人
ジャパン・プラットフォーム
事務局長

越川 真吾氏



1999年

ミャンマーで、子どもたちへ栄養支援と衛生分野の支援を開始しました。



2000年

ジャパン・プラットフォーム (JPF) に参加し、理事団体となりました。



2001年

1月に発生したインド西部地震や、9月のアメリカ同時多発攻撃を受け、困難な状況に置かれた子どもたちに、食料支援などの緊急支援を行いました。また、モンゴルにおいて路上で暮らす子どもたちへの支援を開始しました。



2002年

アフガニスタンのカブールとバミヤンに現地事務所を開設し、紛争の影響を受けた子どもたちに教育支援を行いました。



クイズ

紛争下の子どもたちへの教育支援の重要性を訴えるグローバルキャンペーンの名称は？

答えは次のページのどこかに隠れているよ！

前のページの
答え合わせ！



桑名 恵氏

近畿大学国際学部 教授



2003年

イラクで戦の影響を受けた教育施設へ学用品の提供や上下水道の修理、安全な遊び場の確保といった緊急支援を行いました。

2004年頃に、セーブ・ザ・チルドレン モンゴル事務所の支援によるモノクロ写真講座「子どもたちとレンズ」が開講しました。その頃のモンゴルでは数少ない写真を学べる場所であり、2010年までに80人以上が修了しました。私はこの講座に中学3～4年生の頃に参加しています。カリキュラムである撮影や現像、手焼きのプリント作業を通して、当時の私は身の回りの風景や友人たち、街の様子を記録することに夢中になり、同時に創造力や忍耐、自己肯定感が育てられていきました。元々は軍人や土木技師を志していたのですが、この経験がきっかけで進路を変更、文化芸術大学付属ラジオ・テレビ学院で映画撮影を学び、現在は同学院で教える立場になっています。講座修了以後20年以上にわたり、写真で物語を語り続けています。個展5回、グループ展10回以上、写真集も3冊刊行、映画の撮影現場でも働きました。講座の教師やメンターの教えと励ましが、まさに今の私を作ってくれたと言えるでしょう。私の人生の旅は、「子どもたちとレンズ」から始まりました。

モンゴル事業 参加者

Delgerjargalin Davaanyam氏



2004年

イラン大地震の継続支援として、子どもや妊娠中の女性が保健医療サービスを利用できるよう環境を整備しました。また、7月に発生したネパール洪水の被災地に緊急支援物資を届けました。

2005年

パキスタン北部地震や、スマトラ沖地震の被災地に生活物資などを届けました。

2006年

5月に発生したインドネシア・ジャワ島地震の被災地で仮設学習所を支援しました。

2007年

イラクから避難してきた子どもとその家族を支援するため、ヨルダンで教育事業を開始しました。また、ペルー地震、スマトラ南西沖地震、バングラデシュで発生したサイクロン「シドル」の被災地で緊急支援を行い、衛生用品や食料支援などを届けました。

前のページの答え合わせ!

紛争下の子どもたちの教育支援の大切さを訴えるセーブ・ザ・チルドレンのグローバルキャンペーン「Rewrite the Future ~いっしょに描こう!子どもの未来~」がスタートしました。

創立40年、おめでとうございます。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとは、国際的なネットワークを持ちつつ日本で活動し、日本社会やピア団体と国際協力をより盛り上げたいという想いを共有するNGOとして、ともに歩ませてもらっております。2005年頃からは事務局長同士で互いの事務所を訪問して、ともに学び合うことを始めました。課題や志について語り合った時間は、大きな財産となっています。ただ実は、最も勉強になったのは、昼間の学び会というより、夜の交流会での本音の対話(ぶっちゃけ話!?)であったことも申し添えます。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのさらなるご発展をお祈り申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
理事長・元事務局長

片山 信彦氏



クイズ

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが国内で開始した事業の名称は何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

2008年

ミャンマーで発生した大型サイクロン「ナルギス」や中国の四川大地震、インド水害の被災地で、緊急食料配布や保健・教育支援を行いました。



セント・メリーズ・インターナショナルスクールは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの創立40年を心よりお祝い申し上げます。セーブ・ザ・チルドレンは、私たちの学校が学生に共感と思いやりを育むという目標においてなくてはならない存在であり続けています。毎年誇りを持って寄付を行っていますが、私たちにとって本当の恩恵は、「コミュニティ意識の向上」、「目的の統一感」、そして「世界中の他者の生活を考える貴重な機会」を得ていることです。「世界中で、子どもたちとの向き合い方に画期的な変化を起こし、子どもたちの生活に迅速かつ永続的な変化をもたらします」というセーブ・ザ・チルドレンのミッションに少しでも貢献できることを誇りに思います。長年にわたる貴重なご尽力への感謝とともに、改めて心からお祝い申し上げます！

St. Mary's International School
高等部校長

Kimberly Fradale氏



2009年

パレスチナ・ガザ地区で、避難生活を余儀なくされた子どもたちに支援を開始しました。また、モンゴルに現地事務所を開設しました。

始まりは63歳。当時年金受給予定があり、「5%還元しなきゃ」とネット検索をしていた中で目にとまったのがカンボジア支援の情報でした。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動内容に感嘆し、クレジット決済を選択したあの日から17年が経ちました。人道的危機などで行き場のない子どもたちへ希望の光を届け続けるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動の一助として、引き続き寄付を続けていきたいです。

サポーター

大和田 和恵氏



2010年

ハイチ大地震やチリ地震の被災地で緊急支援を行いました。また、ウガンダやスーダン南部で、保健・栄養支援を実施しました。

国内では、日本の子どもの貧困解決を目指した「Speaking Out Against Poverty (SOAP)」事業を開始しました。

この度は、創立40年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。ソニーグループ(以下、ソニー)は「クリエイティビティとテクノロジーの力で、世界を感動で満たす」というPurpose(存在意義)のもと、「感動」と「人」を軸とした長期視点の価値創造に取り組んでいます。人々が感動でつながるためには、私たちが安心して暮らせる社会や健全な地球環境があることが前提です。ソニーは、2010年のハイチ地震の支援から継続的にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと連携しています。2016年には「子どものための災害時緊急・復興ファンド」を共同設立し、緊急時において迅速な支援を開始するために必要となる資金を常にプールするスキームを確立し、世界各地の災害支援活動に活用されています。また、近年では「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」を通じた支援や、ソニーの社員がセーブ・ザ・チルドレンのインドの事業地を視察する「社会課題体験型視察プログラム」など、さまざまな形で連携が広がっています。今後も、次世代を担う子どもたちが創造性を育める社会の実現に向けて、ともに取り組みを進めていきます。

ソニーグループ株式会社 代表執行役 CSO

御供 俊元氏



クイズ

セーブ・ザ・チルドレンは災害や紛争下の子どもたちが「安心・安全に過ごすことができる居場所」を設置しています。さて、この居場所の名称は何でしょうか？

答えは次のページのどこかに隠れているよ！

前のページの
答え合わせ！

前のページの
答え合わせ!

「こどもひろば」は避難所などに
設置する安心・安全な空間です。
セーブ・ザ・チルドレンは、
この「こどもひろば」の設置を世界各地の
緊急支援の現場で実地しています。



2011年

東日本大震災発生直後から、子どもたちが安心・安全に
過ごせる空間「こどもひろば」の運営や緊急備品を配布
したり、給付型奨学金の支援、復興を見据えた防災研修
などを開始しました。東日本大震災緊急・復興支援は、
2015年末まで行いました。また、シリア危機緊急・人道
支援を開始したほか、東アフリカ大干ばつにより影響を
受けた南スーダンとケニアで緊急支援を行いました。

東日本大震災をきっかけに教育の立場から復興支援
に関わり、復興マップづくりや学童防災など、さまざ
まな取り組みをご一緒してきました。セーブ・ザ・チル
ドレン・ジャパンは、子どもを単に支援の対象ではなく、
一人の人間として大切にしており、防災や復興の中で
子どもがどう生き、どう関わるのかを社会に問いかけ
てきた団体だと思います。これからも、子どもの声に
耳を傾け、その学びを未来につなぐ存在であってほし
いと願っています。

神戸大学大学院 国際協力研究科 教授
元職員

桜井 愛子氏



「日本に住む私たちにも子どもの権利ってあるんだ」と、学校での出前講座を通じて
聴こえたつぶやき。「意見を言う権利があるっていうけど、言っても何も変わらない」
という言葉に衝撃を受け、動き始めた子どもの貧困問題解決に向けた取り組み。「被災地の子
どもたちって言わないで。ぼくたちにもできることがある」と、復興に向け立ち
上がった東北の子どもたちとの歩み。「子どもがおとなから学ぶことができるように、
おとなが子どもから学ぶこともあると思う」と、世界に声をあげた子どもたちとの
活動。—セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの国内事業は、常に今を生きる子どもたち
の声とともにありました。これからも、子どもたちの声なき声に耳を傾け、子どもたち
一人ひとりがエンパワメントされる社会を目指し、ともに進んでいきましょう!

元国内事業部職員 現自治体職員 津田 知子氏

東日本大震災後に発足された「石巻市子どもまちづくり
クラブ」に中学1年生から参加していました。当時を
振り返ってみて、震災後の石巻に「学校や学年の異な
る子どもたちと出会う場」があったことが、本当にあり
がたかったという思いがあります。「まち」への想いや
考え方が似た人同士が集まり、どんなことをしようか
と話し合っている時間が楽しい思い出として残ってい
ます。そして、そんな場を作ってくれていたセーブ・ザ・
チルドレン・ジャパンには本当に感謝しています。今後
もセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンには、非常時にお
ける子どもたちの活動への支援をしてほしいと願
っています。

NPO法人ベビースマイル石巻
児童館職員

近藤 日和氏



東日本大震災の
緊急・復興支援事業についてや
事業を通じて学んだ知見と教訓を
記録した報告書も作成しました。

その他 報告書や
教材など



東日本大震災緊急
復興支援
5年間の軌跡



この度はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン創立40年、
誠におめでとうございます。僕たちとセーブ・ザ・チル
ドレン・ジャパンとの出会いのきっかけは2011年の東
日本大震災。その時の状況に対して「自分たちは何が
できるのか」を真剣に考えていた僕たちが、ソニーと
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと一緒に「RESTART
JAPAN」を立ち上げたことに始まります。総勢170名
を超える著名人の皆さんの協力を得て実現した楽曲
「RESTART」のリリースがTUBEとしての支援活動の
スタートとなりました。その後も、東北の子どもたちへ
の支援のため、アメリカのスポーツ選手たちに呼びか
けた活動は、「ワンチーム・オールジャパン」を実感した
体験として、今でも鮮明に思い出されます。近年はウク
ライナ危機を受け「TUBEひまわりプロジェクト」を立
ち上げ、チャリティーワッペン の収益金の全てを支援
に充てさせていただいております。子どもは未来その
ものです。どんな困難な状況にあっても、子どもたちが
心に深い傷を負うことのないよう、セーブ・ザ・チルド
レン・ジャパンには今後もサポートを続けていただき
たいです。もちろんTUBEとしてもその活動に寄り添い
続け、お役に立てることがあればいつでも全力でご協
力させていただきます。

ミュージシャン

TUBE



クイズ

東日本大震災復興支援として、石巻市
の子どもたちが企画・デザインした子
どもセンターをつくりました。さて、
この子どもセンターの名称は何でしょ
うか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

創立40年、心よりお祝い申し上げます。弊社は2012年から「子どもたちの健やかな成長を支えたい」という想いでパートナーシップを結んでおります。当初はベトナムでの少数民族の子どもたちのための学習環境改善事業として、現地の小学校分校を改築するなど海外支援に始まり、その後は日本国内での子ども支援事業に移りし現在に至っています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの取り組みを続けることで、次第にファン・サポーターの方々の認知度向上と併せて、活動支援の輪が広がっていることは私たちにとってもかけがえのない財産です。これからもサッカーの力を通じて子どもたちの輝く未来をセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに守り続けたいと願っております。

株式会社日立柏レイソル
代表取締役社長

山崎 和伸氏



2012年、
セーブ・ザ・チルドレンとユニセフ、
国連グローバル・コンパクトが
「子どもの権利とビジネス原則」を
発表しました。

2013年、シリア支援の中でセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの同僚たちと出会いました。冷静かつ献身的な彼女たちは、私たちとともに、すべてを失った子どもたちへの心理社会的支援を一緒に始めました。武力による攻撃は避難先のキャンプにもおよび、子どもたちの苦しみが増していたことを知った時の衝撃は忘れられません。その瞬間から、私は変わりました。2022年には、シリア危機が長期化し、持続可能な解決策を訴える強い責任を感じました。私は、費用のかさむ給水トラックに頼るのではなく、太陽光発電を利用した給水システムや配水網への転換を提案し、推進しました。ドナーを説得するのは簡単ではありませんでしたが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンはそのビジョンを信じ、長期的な効果を信頼して支援してくれました。その信頼がさらなる資金や大きなインパクトへの扉を開き、今の私を形作っています。

セーブ・ザ・チルドレン シリア事務所 元職員
水衛生スペシャリスト 子どもの保護担当

Rawia Youssef氏



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン創立40年、心よりお祝い申し上げます。日本の国際協力NGO創設が活発化しはじめた80年代に有志の皆さんのご尽力により日本法人として創立され、貧困、教育、保健といった分野を中心に子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を展開されてきたことに深く敬意を表します。外務省とも緊密に連携し、日本の開発協力の基本理念である人間の安全保障の実現に大きくご貢献いただけてきました。私自身、2013年フィリピン台風ヨランダでは、保健クラスターを通じてセーブ・ザ・チルドレンと現場をともにしましたが、今後とも日本の顔の見える支援を展開していく上でのパートナーとして現場力を発揮いただきたく、益々のご発展をご期待申し上げます。

外務省国際協力局
NGO協力推進室長

岩上 憲三氏



2013年

東日本大震災復興支援として、子どもたちが企画・デザインした児童館「らいつ」を12月に宮城県石巻市に建設しました。フィリピンでは、台風30号「ハイエン」(ヨランダ)で被災した子どもたちやその母親を対象に栄養支援などを実施しました。

前のページの
答え合わせ!

クイズ

東日本大震災復興支援として、岩手県山田町に寄贈した、小中高生の居場所と図書館機能を備えた施設の名称は何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

2012年

東日本大震災復興支援として、給食の補食支援やランドセル提供、通学のためのバス運行支援などを行いました。また、復興計画やまちづくりに子どもたちが参加できるよう支援しました。海外では、ブルキナファソで干ばつの影響を受けた家族への緊急食料支援を行いました。



2014年

東日本大震災復興支援として、「子どものための心理的応急処置」の普及を開始しました。西アフリカではエボラ出血熱感染者が多いリベリア・シエラレオネ・ギニアの3ヶ国で子どもたちやその家族を支援するため、啓発キャンペーンや治療センターの建設などの活動を開始しました。



2015年

宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で、子どもの声が緊急時や復興の枠組みに反映されるようサポートを行い、「仙台防災枠組2015-2030」で子ども・若者の役割が明記されました。また、パレスチナ・ガザ地区の子どもたちに、損壊した小中学校の整備や課外活動支援などを行いました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さんの思慮深く一貫した姿勢が素晴らしく、学びを振り返り、協働に活かす取り組みが皆さんの大きな強みだと感じています。特に、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが時間をかけて築き上げた存在に感銘を受けます。広報やアドボカシー、資金調達、それぞれの地道な取り組みが「現地の事情を深く理解しながら子どもの権利を前進させる」という共通の使命につながっており、そのバランスの取れた姿勢が厚く信頼されるパートナーたらしめています。今後は、アジアのメンバー間でさらなる実践的な協力を深める大きな可能性があると感じています。特に寄付文化においてより持続的で地域に根ざした仕組みを作り、広げていく課題にも取り組めることを楽しみにしています。経験や知見、革新を引き続き共有することで、アジア内外で子どもたちに対する持続的な成果に結びつけられると確信しています。40年の節目をお祝いするとともに、今後の益々のご発展を心よりお祈りします。

セーブ・ザ・チルドレン韓国 事務局長
Gabriel Taeyoung Jung氏

2016年、
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは
創立30年を迎えました。

2016年

4月に起きた熊本地震で「こどもひろば」の開設や給食支援、学用品配布などの緊急支援を実施。10月の鳥取中部地震の被災地でも給食支援を開始しました。また、東日本大震災復興支援として、子どもたちが企画・デザインした小中高生世代の居場所と図書館機能を備えた施設「はびね」を岩手県山田町に寄贈しました。その他、国内では子どもの貧困問題の解決や児童虐待の予防（体罰禁止）事業を開始しました。「子どもに影響のある広告およびマーケティングに関するガイドライン」を策定し、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンとともに公開しました。モンゴルではゾド（寒害）の影響を受けた遊牧民の子どもたちを支援し、ウガンダでは南スーダンから避難した子どもたちに「こどもひろば」の運営をするなど支援を行いました。



前のページの
答え合わせ!

クイズ

2017年にセーブ・ザ・チルドレンが
バングラデシュで行った緊急支援は
何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとは「子どものための心理的応急処置(Psychological First Aid for Children)」の国内第1回目の研修参加以降、災害支援の文脈で長く関わらせていただいています。日本の文化に即しつつ、子どもと子どもの周りのさまざまな立場の大人に向けての普及啓発活動は、私自身も都度、学びの機会となっています。本活動を通じて、災害派遣精神医療チーム(DPAT)、地域の消防団との実働訓練、そして実災害でも即座に連絡を取り合い、今できること、今後に向けてできる支援について、一緒に考える関係性が作られてきました。今後も、子どもを中心とした支援の「つなぎ役」も含めての幅広い活動を期待しています。

桜美林大学 リベラルアーツ学群
准教授

池田 美樹氏

2016年4月の熊本地震の後、復興や町のことを考えるイベントに参加させていただきました。イベントの中で私たち小中学生が意見を出す場面があり、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さんがそれぞれの子どもの意見を一切否定せずに聞いてくださったこと、1回のイベントにとどまらず、その後も私たちが発信する場を複数回作ってくださったことがとても印象に残っています。災害のような大変な時に子どもから大人へ意見や想いを伝えられる機会は少ないです。そんな時に、子どもの声を聞いてくれる大人がいると知れたこと、複数の発信の機会が多くの人たちへ自分たちの意見や想いを伝えられたことが当時はとても嬉しかったです。今後も子どもたちの声を聞いていただくと嬉しいです。

大学生
熊本地震復興支援活動に
参加した当時小学生

三宮 千佳氏



2017年

九州北部豪雨の影響を受けた福岡県朝倉市や東峰村、大分県日田市で緊急支援を実施しました。また、バングラデシュへ避難したロヒンギヤの家族への生活用品の配布や、イエメンで紛争の影響を受けた子どもたちへの教育支援を実施しました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンがチャットグラムとコックスバザールで継続してきた協力は、バングラデシュの子どもを守り地域を力づける強い決意の表れです。子ども保護システムを強化し政府の関与を得ることで、子どもたちが安心して成長できる安全な場を作ってきました。「Shifting Power to the Community(地域へのパワーシフト)」の取り組みでは、子どもクラブやチェンジ・メーカー、政策提言を通じて、若者がリーダーとなり同世代の支援者として活躍しています。難民キャンプでは、水衛生やシェルターの事業が何千人もの安全と尊厳を高め、地域主導の委員会や研修を通じて住民の主体性も育てています。竹の橋で安全な通行を確保したり、思春期の少女たちが生理用品を作ったりする取り組みは、たくましさや希望の物語です。この総合的なアプローチによって、仕組みが持続発展し、若者の声が届きやすくなると期待しています。バングラデシュ事務所を代表して、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのかけがえのない支援と子どもたちへの献身に心より感謝申し上げます。

セーブ・ザ・チルドレン バングラデシュ事務所
カントリー・ディレクター

Suman (Shumon) Sengupta氏

グラクソ・スミスクライン(GSK)は、「サイエンス、テクノロジー、人財を結集し、力を合わせて病に先手を打つ」を存在意義とする、グローバルなバイオ医薬品企業です。2013年、GSKはセーブ・ザ・チルドレンとの世界的なパートナーシップを開始し、低所得国で子どもを脅かす感染症対策などに取り組んできました。従業員寄付や企業マッチングによる支援を通じて活動を支え、日本のGSKもその一翼を担っています。私は2017年、Trek for Kidsという企画に参加しました。世界各国の40名のGSK社員有志が、標高5,000mのケニア山登山に挑戦することで、周囲に寄付を呼び掛ける取り組みです。登頂後、セーブ・ザ・チルドレンが支援する村を訪問しました。そこで命を救われた赤ちゃんを抱かせてもらうという忘れられない瞬間を経験しました。その小さな命は、支援が単なる物資提供にとどまらず、コミュニティ全体に希望と変化をもたらしていることを教えてくれました。現地の皆さんが誇りに満ちた力強さを持って活動している姿は、支援の意義を再認識させるものでした。日本のGSKでは、「子どもの食 応援ボックス」梱包ボランティアや寄付つきランチメニューの提供、従業員寄付の給与天引き制度などを通じて支援を拡大していきます。これからも、子どもの健康を守る活動に貢献していきます。

グラクソ・スミスクライン株式会社(GSK)
コーポレートコミュニケーション
ディレクター

吉田 直美氏



クイズ

セーブ・ザ・チルドレンが創立100年を迎えた2019年に開始した、紛争下の子どもを守るためのグローバルキャンペーンの名称は何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

2019年

台風19号で被害を受けた福島県いわき市と宮城県丸森町を中心に、緊急支援物資の配布や「こどもひろば」の実施、子ども関連施設への備品提供などの支援を行いました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとは、虐待防止の活動で一緒にさせていただくことが多いのですが、最も密に関わらせていただいたのは「体罰禁止の法改正」(2020年施行)の時でした。ロビイングにも連日通い、超党派の勉強会にも一緒に参加させていただきました。その後、私が属するNPO法人子どもすこやかサポートネット(現在は任意団体)が中心となり署名活動もさせていただき、それまでの動きは体罰禁止の大きな後押しになったと聞いています。2026年12月には日本版DBS・子ども性暴力防止法もスタートするというので、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが先駆的に進めている子どものセーフガーディングの浸透も必要と思っています。これからも連携させていただきながら、子どもの尊厳と権利を守る活動を前へ進めていけたらと思っています。

認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワーク
副理事長

高祖 常子氏



創立40年おめでとうございます。子どもの貧困が社会的な注目を集め始めたのは、2010年頃からです。それ以降、さまざまな活動や調査の場面で一緒にさせていただきました。これまで多くの場合、子どもの貧困は経済的な問題として語られてきました。もちろんそれは重要な視点であり、欠かすことはできないものですが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンはそこにとどまらず、「子どもの権利」という視点からも、子どもの貧困をどう捉えるべきかを問い続けてきたように思います。そうした議論の積み重ねが、ひとつの形として結実したのが、2024年に成立した「こどもの貧困解消法」ではないでしょうか。その随所に、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが大切にしてきた価値観が、静かに、確実にちりばめられていることを、法律を読み直すたびに感じます。

沖縄大学 元教授
「なくそう!子どもの貧困」
全国ネットワーク世話人

山野 良一氏



創立40年おめでとうございます。皆さんとの活動は、2018年11月、佐賀県地域の子育て支援講座で「子どものための心理的応急処置(子どものためのPFA)」を開催したことが始まりでした。これは、西日本豪雨で被害を受けた真備町での災害支援をきっかけに実現したものです。その後も佐賀は2回の豪雨災害に見舞われましたが、いずれも発災直後から子どもの居場所開設など、さまざまな支援をいただきました。そして、脆弱な学童保育防災についての取り組みをともに始めることとなります。緊急持ち出し袋や医療キットの寄贈、学童保育への研修提供、佐賀県学童保育の調査研究と、次々と活動を広げていきました。現在も私たちは歩みを止めることなく、子どもの命を守る防災を一步步進めています。

NPO法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会
理事長

石橋 裕子氏



国内で全国2万人を対象とした子どもへの体罰等の意識・実態調査報告書を公表しました。

2018年に国内で、子どもの権利と子どもの貧困に関する全国3万人の意識調査結果を公表しました。

前のページの
答え合わせ!

セーブ・ザ・チルドレンは1919年にイギリスで創設されてから100年を迎え、グローバルキャンペーン「STOP THE WAR ON CHILDREN(紛争下の子どもを守ろう)」を開始しました。

クイズ

こども家庭庁創設に対し、子ども・ユースの意見を政策に反映させることを目的に、全国4ヶ所(青森市・名古屋市・松山市・那覇市)で行ったプロジェクトの名称は何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!

2018年

西日本豪雨の影響を受けた岡山県倉敷市でこころのケアのための支援や学用品の配布、給付金の提供などを行いました。ミャンマーとベトナム、ラオスでは少数民族の母子の健康改善を目指した活動を行いました。

2020年

新型コロナウイルス感染症拡大への国内緊急支援として、ひとり親家庭への食料支援や学童保育への助成、「子どものための心理的応急処置」オンライン講座、子ども給付金を実施しました。また、緊急子どもアンケートを実施し、報告書「子どもの声・気持ちをきかせてください!」を公表しました。さらに、休眠預金を活用して全国17団体の緊急活動を助成・支援しました。



「こどものミカタ」とは、子どもへの「そうだったんだね」が詰まったウェブサイト「おやこのミカタ」のコーナーのひとつです。



「こどものミカタ」の発信で大切な子どもの視点を教わりました。専門性を持ち、子どもの心に寄り添う皆さんを、これからも微力ながら応援し続けます。

サポーター 金藤 洸氏



2021年

国内での新型コロナウイルス感染症拡大の緊急対応として、食料支援を継続しました。世界各地で保健医療サービスがひっ迫し、学校閉鎖も続くなか、ウガンダやレバノンなどで防護服の支援や、遠隔での教育支援などを展開しました。



こども家庭庁創設に対し、子ども・ユースの声を政策に届ける「子ども・ユースキャラバン2022」を全国4ヶ所で開催しました。

前のページの答え合わせ!

教育に携わる者として私たちがセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを支援する理由は、「すべての子どもが学ぶ機会を得られるだけでなく、その学びを可能にする安全、尊厳、ケアが保障されるべきだ」という共通の想いからです。特に心を動かされるのは、毎年実施している「寄付デー」での交流です。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さんは、一方的に助けるのではなく、子どもたちとの対話を大切に、小さな行動でも力を合わせれば社会を動かせることを伝えてください。こうした経験は、彼らの共感力と責任感を深めてくれます。誠実さをもって成長を続けるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの姿を見るたび、子どもたちが学び、思いやり、そして日々成長していけるよう、ともに力を尽くしていけることに希望を感じています。

Aiwin International School 校長

Darlin Caroline Okada氏



創立40年おめでとうございます。ファーストリテイリングは2022年6月、ユニクロのグラフィックTシャツ「UT」の一環として、PEACE FOR ALLプロジェクトをスタートしました。「世界の平和を願ってアクションする」という趣旨に賛同した著名人が、ボランティアで参加し、平和への願いを込めてデザインしたUTを発売。その利益の全額が、困難な状況下にある人々を支援する、国際的な団体へと寄付されます。寄付先の一つであるセーブ・ザ・チルドレンを通じて、世界各地での人道支援活動に加え、カンボジアやバングラデシュ、タイ、マダガスカル、ウガンダにおける若者のエンパワーメントプロジェクトへの支援が行われています。子どもや若者の権利を尊重し、未来、希望を創造していくことに、セーブ・ザ・チルドレンとともに取り組めることを誇りに思っており、これからもこの活動や関係性の発展を期待しております。今後も全ての人が安全に暮らせる未来と、世界の平和を願い、セーブ・ザ・チルドレンとともに、この活動を世界中へと広げていきます。

株式会社ファーストリテイリング
グループ執行役員

新田 幸弘氏



2022年

日本国内の子ども支援NPOを支えるため地域NPO支援事業を開始しました。また子どもの貧困問題解決として、0歳から18歳の子どもの育ちと学びを支える食料支援・乳幼児支援・給付金・体験の機会の提供といった新事業を開始しました。海外では2月にウクライナ危機が起こり、避難を強いられ大勢の子どもたちへ緊急支援を開始しました。

クイズ

災害などの緊急時、子どものころを傷つけずに対応するため「準備・見る・聴く・つなぐ」の行動原則を基本とした、子どものころの応急手当てを何と呼ぶでしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!





2023年

政府の「こども大綱」策定にあたり、子どもの権利に基づく貧困解決を求め、85賛同団体を得た共同声明を発表しました。また、2022年に起こったウクライナ危機に対し、緊急子ども支援を継続しました。

「高校生活まなびサポート（まなサポ）」は、宮城県石巻市で実施している継続型の給付金事業です。

まなサポを2023年秋から利用しています。それまでは生活やまなぶ費用に不安がありましたが、まなサポで生活が豊かになり、毎日楽しく笑顔で生活し、勉強にも精を出して頑張ることができています。食糧支援のボックスも家族みんなで開けてみんなが笑顔になっています。こうした活動をしている皆さんが大好きです。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動の中では、やはり実際に国会議員さんに声を届けるというのが貴重な体験だったと思っています。国会議員さんと学びとお金について深く話し合ったりすることができました。これからもたくさんの世界中の子どもが少しでも笑顔が多く生活できるようセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのこれからを期待しています!!

高校生
高校生活まなびサポート利用者
まっつん氏

私は桑田佳祐さんと松任谷由実さんの楽曲「Kissin' Christmas (クリスマスだからじゃない)2023」の収益金がセーブ・ザ・チルドレンに寄付されたのを機に、ボランティア登録と支援を始めました。活動は毎回楽しく、さまざまなお話が聞けてとても勉強になっています。

ボランティア **川本 智子氏**

2022年から2024年までの2年間、インターンシップとユースチームの活動に参加させていただきました。学生の私にとって、どれも素晴らしい経験となりました。印象に残った出来事は多々ありますが、特にユースチームの活動が心に残っています。ユースチームではアドボカシーを中心に、緊急下の教育を守るための活動を行っていました。国会議員との対話では、「学生だからといってなんでも話を聞かしてはならない」という厳しくも優しさのある励ましを受けつつ、最終的には約4億円の拠出を実現することができました。留学や卒業でメンバーが入れ替わる中、私が参加するより前から続いていた活動を形に残すことができ、本当に嬉しかったです。現在私は一般企業に就職していますが、これからも関心を高く持ち続け、また何かの形で活動に参加したいと思っています。

一般企業 **菊地 翔氏**



私が勤務する中学校でグローバル・シティズンシップ教育を推進していただけたことから、SDGsに関するイベントや教材づくりにご一緒させていただいております。「世界一大きな授業」への参加や「子どもの人権」に関する教材などを通して、学校に国際協力の現場からの声を届けることができました。また、2024年夏にはロヒンギャ難民キャンプへ訪問する機会をいただきました。コックスバザール事務所の皆さんが、現地で暮らす人々に寄り添い、ともに歩みを進める姿を見て、その生き方や振る舞いに胸が熱くなりました。私も一人ひとりの想いに耳を傾け、ともに歩みながら未来をつくる活動に、これからも関わっていきたくと思っています。

埼玉県立伊奈学園中学校 教諭
認定NPO法人開発教育協会 (DEAR)
副代表理事
松倉 紗野香氏



能登半島での緊急支援や貧困問題解決事業では、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さんがどんな場面でも「子どもの権利」を軸に、相手の状況に合わせて会話している姿が本当に印象的でした。子どもの生きづらさや悩みに向き合うとき、彼らの権利を中心に据え、最善に向けて一気に動き出すあの瞬発力に毎回驚かされます。だからこそ、現地の団体や行政、そして子どもたちから信頼されているんだと思います。出会うスタッフの皆さん全員が、息をするように子どもの権利を大切にしている姿は頼もしく、いつも心が引き締まる思いで、学ばされます。創立40年という大きな積み重ね、本当におめでとうござります。

一般社団法人TOKYOPLAY プロジェクトマネージャー
一般社団法人プレーワーカース 理事
神林 俊一氏



2024年

能登半島地震の緊急支援として、石川県能登地域で、緊急支援物資の提供や子どもたちが安心・安全に過ごせる居場所づくり、学校・学童保育への備品提供、「子どものための心理的応急処置」研修の実施、給付金の提供などを行いました。

前のページの答え合わせ!

クイズ

紛争下でも子どもたちの教育を守るため、日本政府に国際指針「学校保護宣言」への賛同を求め、協力団体やユースとともに行った取り組みは何でしょうか?

答えは次のページのどこかに隠れているよ!



創立40年おめでとうございます。友人がセーブ・ザ・チルドレンで働いていたことから活動を知り、自然と寄付をするようになりました。さらには勤めている会社の取り組みで、神田の事務所にて直接お話を伺ったことで、世界中で活動をしている方々のことが身近に感じられるようになり、ご支援したい気持ちが強まりました。皆さんの活動が末長く続くことにより、世界中で助かる子どもたちが一人でも増えることを心から願っています。

サポーター **D・N氏**



2025年

能登半島地震・豪雨の復興支援を継続し、2回目子ども給付金を実施。また、助成プログラム「能登子どもスポーツ・文化ファンド」を通じてスポーツ少年団や祭り保存会など51団体の活動を支援しました。全国の15歳から17歳と18歳以上の約2万人を対象に「国際協力に関する意識調査」を実施しました。

紛争下の教育を攻撃・軍事利用から守るための国際指針「学校保護宣言」への日本政府の賛同を求めるための「学校保護宣言キャンペーン」を協力団体・賛同団体、ユースとともに展開しました。

前のページの答え合わせ!

セーブ・ザ・チルドレンとの関わりは、中学の文化祭で募金活動をしようと思い立ち、母の紹介でセーブ・ザ・チルドレンを知りました。まさか10年後に社会啓発チームのインターンシップに加わっているとは!素晴らしい縁に感謝の気持ちでいっぱいです。インターンシップ中に特に力を入れたのは、学校を攻撃・軍事利用から守る「学校保護宣言」への賛同を日本政府に対して働きかけるキャンペーンです。最終的に日本政府の立場は動かず、悔しさの残るものとなりましたが、その過程で中高生をはじめ、多くの方々とともに紛争下の教育の重要性について学び、発信できたことは私の大きな誇りです。すべての子どもたちが質の高い教育にアクセスできるその日まで、私の中のキャンペーンは終わりません。

東京大学大学院総合文化研究科修士2年
アドボカシー部社会啓発チーム
元インターン

吉田 莉々氏



弊社は「学校制服を通じて子どもたちの未来と安全を考える」という理念のもと制服をお届けしてまいりました。一部の制服にはセーブ・ザ・チルドレンマークをネームとして使用し、日々子どもたちの成長の節目に立ち会いながら、その存在を広く伝えております。すべての子どもが平等に学びの機会を得られる社会の実現に向け、困難な状況に置かれた子どもたちに寄り添い、声なき声に耳を傾け、支援を届け続けているセーブ・ザ・チルドレンの活動に深い敬意を表します。セーブ・ザ・チルドレンの理念に強く共感し、22年にわたり一緒に過ごせたご縁に感謝するとともに、今後さらに多くの子どもたちの笑顔と可能性が広がることを心より祈念いたします。

オゴー産業株式会社
代表取締役社長

小郷 武史氏



デイキャンプで子どもたちと川遊びをしたり焼きそばを食べたりした時間は、「ボランティア」という堅いイメージから離れ、子どもたちと同じ目線で楽しめた、印象深い思い出となっています!

立教大学 学生ボランティア

穂満 梨奈氏



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン創立40年、心よりお祝い申し上げます。災害時の緊急支援はもちろんですが、子どもの日常を支える一助を担うことができるといふ思いから「子どもの食 応援ボックス」の支援を長く続けさせていただいております。いつも丁寧に報告をくださり、「お菓子を友達と分け合えた」「自分を想ってくれる人が外にもいると知った」といった声に触れるたび、セーブ・ザ・チルドレンを通して活動現場やそれぞれのご家庭に思いを寄せ、心のつながりを感じています。これからも子どもたちの何気ない毎日と未来に寄り添い続けたいと願っております。

クリエイティブディレクター 佐藤 可士和氏



セーブ・ザ・チルドレン韓国を代表し、創立40年の節目を心からお祝い申し上げます。この節目は、子どもたちの権利とウェルビーイングを守るためにともに歩んできた私たちの尽力の証です。昨年初めに日本事務所を訪問した際、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの皆さんの情熱やプロフェッショナリズム、あたたかさに触れ、特に子どもたちの声に耳を傾け、それを具体的な行動につなげる姿勢には感銘を受けました。長年の活動を経て、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンはセーブ・ザ・チルドレンの中で頼もしく尊敬される存在へと成長しました。皆さんのリーダーシップや革新、連携は日本国内だけでなく、アジアや世界にも大きく貢献しています。課題や不確実性が増す今こそ、アジアのメンバーの役割はより重要だと考えます。互いに支え合いながら力を合わせることで、子どもたちへの影響力をさらに広げていけるはずです。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンがこれからも勇気と創造性、思いやりを持って先頭に立ち、アジアはもちろん世界中の子どもたちの声を届け続けてくれると確信しています。改めて創立40年、おめでとうございます。今後もともに子どもたちのために活動を続けられることを楽しみにしています。

セーブ・ザ・チルドレン韓国 理事長

Joon Oh氏



国内支援活動は、東日本大震災を機にスタートしました。震災から間もない2011年3月16日、職員(当時)より「避難所で子どもの居場所を作ろうと思っているんだけどどう思う?」という電話がありました。子どもたちの様子や声から、避難所には彼らの居場所がないことに気づいたとのこと。私は「ぜひやるべきです。できる限りフォローをします」と返事をしました。その後、緊急時に子どもたちが安心・安全に過ごすことができる「こどもひろば」、子どもたちが復興のまちづくりに取り組む「子どもまちづくりクラブ」といった事業が展開されていきました。いつどのような緊急事態にあっても国内事業部が大事にしてきたのは、子どもの意見表明・参加です。日本社会では「災害のような大変な時に子どもの声なんて聞く必要あるの?」という考えが大半を占めているように思います。だからこそ、災害時の子どもたちの声を記録に残すことが重要と考えます。『震災後に中高生が果たした役割の記録』(2013)から『2024年能登半島地震子どもアンケート』(2025)まで、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは緊急事態を経験した子どもの声に耳を傾け、広く発信してきました。これらの記録は全国各地の防災教育や政策提言に活かされています。これからも、子どもの意見表明・参加の更なる牽引を期待しています。

工学院大学 教授

安部 芳絵氏



1986年から40年、
私たち、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは
多くの方とともに歩んできました。

世界各地に支援を届けてきた一方で、
多くの厳しい現実が今も続いていることを
改めて受けとめています。

私たちの歩みはまだ終わりません。
さあ、ともに歩み続けましょう。
未来を描く、旅へ。



ともに歩もう

すべての子どもの権利が
実現された世界を目指して



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
公式サイト



子どもの権利条約

子どもの権利条約は、子どもを守られる存在としてだけでなく、一人の人間として権利を持つ主体であることを明確にした初めての条約です。生きること、育つこと、守られること、そして自分の意見を伝えることなど、子どもが安心して成長するための基本的な権利が示されています。

これってどういう権利なんだろう？



第1条

子どもの権利条約では、18歳未満のすべての人を「子ども」とします。

第2条

人種・皮膚の色・性別・言語・宗教・障害・貧富の差・考え方・生まれた環境や場所などによって差別されない権利があります。

第3条

国やおとなから、その子どもにとって最も良いことを優先して考えてもらう権利があります。

第4条

子どもは国に子どもの権利条約を守ってもらう権利があり、国は子どもの権利を保障する義務があります。

第5条

子どもの権利を行使できるように、親などから心身の発達にあった適切な支援を受ける権利があります。

第6条

生きる権利・育つ権利、命を大切にされる権利があります。

第7条

生まれた時から、名前や国籍を持ち、できるかぎり親を知り、親に育てられる権利があります。

第8条

名前・国籍、身元がわかるものなど、自分のアイデンティティがうばわれないように、国から守られる権利があります。

第9条

虐待など子どもへの害がない限り、親と離されない権利があります。

第10条

他国に住む親や家族と連絡をとり、会える権利があります。

第11条

法に反して他国に連れて行かれず、また自分の国に戻れる権利があります。

第12条

自分に関わるすべてのことについて意見を聴かれ、その意思を大切にされる権利があります。

第13条

さまざまな方法で情報や考えを得て、自由に伝えたり表現したりする権利があります。

第14条

自分の考えや宗教などを自分で決める権利があります。

第15条

市民として社会に参加するために、グループを作り、集まる権利があります。

第16条

プライバシーが守られ、名誉や信用を傷つけられない権利があります。

第17条

さまざまな情報にアクセスでき、有害な情報からは守られ、情報を有効に活用する権利があります。

第18条

子どもは、まず親・保護者に育てられる権利があります。そのために、子どもを育てる責任がある親・保護者を国がサポートします。

第19条

子どもの身体や心を傷つけるあらゆる暴力・言葉から守られる権利があります。

第20条

子どもは、家庭的な環境で育つ権利があります。それができない場合は、里親家庭や養子縁組、児童養護施設で暮らすなど、別の家庭的環境を得る権利があります。

第21条

養子縁組をする場合、その子にとって最もよいと確認された新しい環境で育てられる権利があります。

第22条

難民となって逃れている場合、特別な保護やサポートを受ける権利があります。

第23条

身体や心の障害にかかわらず、社会に参加し、教育や医療サービス、仕事などの機会を得る権利があります。

第24条

いつでも健康であるために保健・医療サービスを受けることや、子どもの健康を害するような習慣をなくしてもらう権利があります。

第25条

施設に暮らしている場合、そこでの子どもの扱いが良いものかどうか、定期的に調べてもらう権利があります。

第26条

子どもの生活を支えていくために、社会保障などのサポートを利用する権利があります。

第27条

身体や心を成長させていけるよう、十分な水準の生活を送る権利があります。

第28条

すべての子どもは、平等にかつ無償で教育にアクセスできる権利があります。学校の規律は、子どもたちの尊厳が守られるものでなければなりません。

第29条

教育によって、自分の身体と心を成長させる権利があります。教育の目的には、人権・母国や生まれ育った社会の価値観や言語、平和、友好の精神、自然環境を尊重することなどが含まれます。

第30条

少数民族や先住民族である場合、自分たちの文化を守り、宗教を信じ、言葉を使う権利があります。

第31条

子どもには、休む権利、自由な時間を持つ権利、遊ぶ権利があり、文化的・芸術的な活動に十分に参加する権利があります。

第32条

身体や心にとって危険な仕事や、学校に通えなくなるなど教育がさまたげられるような仕事から保護される権利があります。

第33条

麻薬など違法な薬物の使用から守られ、その生産や取り引きに巻き込まれない権利があります。

第34条

不法な性行為をさせられることや、性的な写真や動画を撮られることなど、あらゆる性暴力から守られる権利があります。

第35条

ゆうかいされず、売り買いされない権利があります。

第36条

誰からも幸せをうばわれず、子どもの成長に害を与える、あらゆる搾取や不当な扱いから守られる権利があります。

第37条

ごうもんや死刑など、身体や心を傷つける非人道的な扱いを受けず、不当に自由をうばわれない権利があります。

第38条

子どもは平和に生きる権利があります。紛争・戦争でたかうことを強いられず、紛争・戦争にまきこまれた場合には、保護される権利があります。

第39条

あらゆる暴力の犠牲・対象となった子どもは、身体と心を回復させ、社会に復帰し、尊厳を取り戻すための支援を受ける権利があります。

第40条

法に反する行為を行った子どもは、社会に復帰できるよう、人間の尊厳についての意識が高まる形に対応される権利があります。

第41条

「子どもの権利条約」よりもっと良い法律や決まりがあれば、それを使う権利があります。

第42条

おとなだけでなく子どもも、「子どもの権利条約」を知る権利があります。

子どもの権利条約 実は54条まである？

1989年11月20日に国連総会で採択された「子どもの権利条約」は全部で54条ありますが、43条から54条は特に、国・国際機関・その他の組織や団体に対する約束ごとです。そのため、この一覧表には、特に子どもたちに知ってほしい42条までの条文を掲載しています。





公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F

2026年5月 発行